

# 宇都宮観光コンベンション協会 中期経営計画評価表（平成27年度実績）

平成28年4月1日現在

## I 組織の概要

### 1. 基礎情報

所在地	宇都宮市中央3丁目1番4号		設立年月	平成12年4月1日	
市所管課	経済部 観光交流課		代表者	会長 北村 光弘	
ホームページアドレス	http://www.utsunomiya-cvb.org				
基本財産（資本金）	—		主な出資者	出資額	出資割合
	—		—	—	—
	—		—	—	—
市出資額	—		—	—	—
市出資割合	—		—	—	—
設立目的等	宇都宮市内に有する自然環境や文化的・経済的特性を活かして、観光客、コンベンションの誘致を行うことによって、観光、コンベンションの振興を図り、地域の活性化、文化の向上に資する。				
主な事業	1 誘致宣伝事業 2 観光推進，観光情報宣伝事業 3 コンベンション推進事業				
公益目的事業比率 （公益法人のみ）	—				

### 2. 組織・人員情報

役職員数	役員				職員					
	常勤	理事	うち市OB		正規職員等			嘱託・臨時職員等		
			0	0	正規職員	4	0	嘱託職員	7	0
非常勤	監事	0	0	再雇用職員 （フルタイム）	0	0	再雇用職員 （短時間）	0	0	
	理事	28	0	派遣等 職員	1	0	臨時職員等 （アルバイト等 含む）	0	0	
監事	2	0	市 市以外	1	0					
計		30	0	計	7	0	計	7	0	
役員の平均年齢（歳）	—		役員の平均年収（千円）	—		情報公開制度の有無	×			
職員の平均年齢（歳）	49.2		職員の平均年収（千円）	5,992		個人情報保護体制の有無	○			

### 3. 財務状況

単位（千円）

【貸借対照表】	27年度決算	備考
資産	26,926	
負債	0	
（うち損失補償等額）	0	
純資産	26,926	
（うち利益剰余金）	0	

※一般財団等は、純資産を正味財産合計、利益剰余金を一般正味財産として読み替えています。

【損益計算書】	27年度決算	備考
総収入	56,529	
（うち市補助金等）	47,597	
（うち市委託料等）	0	
経常損益	0	
当期損益	0	

※一般財団等は、損益計算書を正味財産増減計算書、経常損益を当期経常増減額、当期損益を当期一般正味財産増減額として読み替えています。

【宇都宮観光コンベンション協会】

## Ⅱ 各項目の取組状況

### 1. 事業の充実・重点化

No	取組項目	目標	基準値	実績値				
			H26年度	H27年度				
1	餃子・カクテル・ジャズの街としてのブランド強化による誘客促進	入込客数15,000千人	14,169,900人	14,700,500人				
2	ホームページによる情報発信力の強化	閲覧回数1,200千回	1,357,000回	903,209回				

### 2. 地域における公益的活動の推進

No	取組項目	目標	基準値	実績値				
			H26年度	H27年度				
3	観光関係団体に対する中間支援機能の強化	年間8件	7件	8件				

### 3. 健全経営の維持と経営の更なる改善

No	取組項目	目標	基準値	実績値				
			H26年度	H27年度				
4 (共)	市からの補助金・負担金の適正化	継続的な見直し	実施	実施				
5	自主財源の確保	自主財源比率22%	18%	16%				

### 4. 組織・人員体制の強化

No	取組項目	目標	基準値	実績値				
			H26年度	H27年度				
6 (共)	常勤職員数の適正化	適正人員の確保	実施	実施				
7	権利確保や収益事業推進に向けた組織のあり方の検討	適切な組織形態の確立	検討	検討				
8	人材育成	ベテラン職員の人脈やノウハウを適切に引き継ぎ、事業を円滑に推進する。	実施	実施				

### Ⅲ 総合評価

<p>団体による 自己評価</p>	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの観光・コンベンション事業の充実に加え、新規事業として「ファーストカクテルチケット事業」を実施し、「カクテルのまち宇都宮」としての誘客促進を図った。更に協会の会員と観光関連団体である宇都宮カクテル倶楽部等との橋渡しを行い、地元農産物を使った瓶詰カクテルの販売につなげた。また、「おもてなしセミナー」を開催し、おもてなし体制の強化を図り、2018年開催のデスティネーションキャンペーンにつなげることができた。更にJR駅構内に設置してある観光案内所において「宇都宮・益子フリーきっぷ」を販売し、自主財源の確保に努めた。こうした取組により、1,470万といった過去最高の観光客入込客数を達成することができた。</li> </ul> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現在、人口減少時代に突入し交流人口の拡大、地域経済の振興が急務であり、その柱として観光振興の推進が求められている。今後は本市の観光と歴史、文化、産業、食、伝統工芸等を有機的に結びつけ、更には周辺市町ともタイアップしながら、観光振興のリーダーとしての自覚のもと、ブランドやおもてなしの推進、既存資源のブラッシュアップ、新規資源の発掘に努めるとともに、こうした事業を適切に実施していくための組織のあり方について検討する必要がある。併せて自主財源の確保に取組み、自立的な組織運営を目指していくことが必要である。</li> </ul>
<p>所管課による 評価</p>	<p>【評価】</p> <p>本市の観光入込客数は、平成27年に過去最高の1,470万人に達するなど、近年順調に伸びている。協会においては、引き続き、餃子、ジャズ、カクテルなどの観光資源を活用した事業の実施により、本市への観光誘客促進を図るとともに、協会会員や地元企業・団体等と連携した事業展開により、地域経済の振興と来訪者へのおもてなしを充実させる役割を期待したい。</p> <p>ホームページの閲覧数については、ソーシャルネットワーキングサービス（SNS）をはじめとする多様な媒体を活用していることなどにより減少しているが、今後は、SNSと連動した情報発信や充実した情報量、多言語での情報掲載などの特性を活かし、ホームページを核とした効果的な情報発信を実施してほしい。</p> <p>自主財源の確保については、景気の影響などにより、新規会員獲得による会費の増収には至っていないものの、民間事業者と連携し、路線バス乗車券やカクテルチケットを企画販売するなど、新たな収入源の確保に向け一定の成果を上げている。引き続き、自主財源の確保のための取組を実施するとともに、収益事業推進に向けた組織のあり方の検討を進める必要がある。</p> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>JRグループのデスティネーションキャンペーンなど、今後実施される観光キャンペーンやMICEなどのコンベンションに合わせた観光誘客事業やおもてなし事業の検討</li> <li>多様な媒体を活用した情報発信の強化</li> <li>自主財源の確保のための取組実施</li> <li>今後の協会の事業推進に適した組織のあり方検討</li> </ul>